

# 「明るく・楽しく・元気よく」サークル協に集う仲間の力で、組織拡大を目指します！

## JR東労組サークル協議会第31回定期総会開催！

JR東労組サークル協議会は8月29日、武蔵浦和コミュニティセンター・サウスピアにおいて、各部・各地本より30名の仲間が集まり、第31回定期総会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小、開催時間を短縮し、感染予防策として、参加者の検温、アルコールによる手指消毒を徹底した上で開催しました。

総会は、本部サークル協・石戸副議長の開会あいさつから始まり、8月22日に再建された東京地本の三宿さんを総会議長に選出し、議事の進行を務めていただきました。

川島議長のあいさつでは、各部の一年間の苦労に対するお礼と、「コロナ禍でサークル活動も変化点にきている。サークル協議会と各部・各地本連携をとりながら、やり方を模索していく必要がある。サークルを通じて、組織強化・拡大に取り組みしていく決意が述べられました。

来賓あいさつでは、JR東労組・下村中央執行副委員長から、「JR東日本の第一四半期決算を分析し、組合員の雇用や今後の労働条件に関して大きな危機感がある。休業指示に係る就業規則の改正についても労働組合としてしっかりと向き合っていく。サークル協として離脱した組合員などへJR東労組の存在意義を真摯に訴え、組織の強化・拡大へつなげて欲しい」とあいさつを受けました。

また、賛助団体の鉄道ファミリーより菅野取締役営業部長にも出席いただき、自動車保険・サークル保険などを含め、鉄道ファミリー商品の購入拡大に向けて協力要請がありました。

その後、新田事務局長よりこの一年間の経過報告、今後一年間の活動方針が提起され、質疑に入りました。

レールクラブ・写真部・サッカー部・釣り部・横浜地本・ボウリング部・バドミントン部・八王子地本から発言があり、「18春闘以降、大敗北と総括ができない者たちによる分裂策動があり、役員体制に支障が生じた」



役職	氏名	所属	分会
議長	川島 淳	大宮台	大宮運転区
副議長	石戸 亨	八王子	福島総合運輸区
// (新)	野中 広俊	八王子	青梅駅
// (新)	伊藤 彰英	八王子	盛岡新幹線運輸区
//	中島 匡	八王子	宮城野運輸区
事務局長	新田 英二	大宮	さいたま運転区
事務局次長	上原 潤一	大宮	
//	鈴木 佳織	大宮	

「コロナ禍により大会も開催できない悩みがある。三分裂の中、サークルのグループラインが力になった。横浜地本でバドミントン大会を開催した。参加した新潟地本の仲間は、混乱があった時も『美世志を共に歩む』との力強い決意をしたと聞いた」など、各部の現状報告や悩みなども出されました。また、サークル活動の意義や新生JR東労組運動宣言に基づいて、組合員や離脱した組合員を含め、組織の強化・拡大を目指していくという力強い発言もありました。

新田事務局長は、「コロナ禍での大会・総会の開催に向けて対策を含め前向きに幹事会などで議論を深めてほしい。取り巻く情勢をしっかりと踏まえ、サークル協議会から新たな組織拡大を目指そう」と総括答弁を行いました。その後、新役員体制を確認し、中島副議長の閉会あいさつ後、川島議長の団結カンパニーで終了しました。

JR東労組サークル協議会は、分裂組織を許さず、18春闘以降の真実が伝えられなかった空白の2年を埋めるべく、離脱せざるを得なかった組合員の再結集を目指していきます。コロナ禍の収束は未だに見えませんが、サークル活動を通じた組織の強化・拡大に向け、全組合員と共に進んでいきます。

# 3部会の定期委員会および総会を開催

### 医療部会

#### 職場環境改善活動を通して

#### 組織強化・拡大を目指します

8月30日、本部会議室において医療部会総会を開催しました。

桜井部会長からは、JR東京総合病院での組合員の状況やコロナ禍における病院経営の課題認識についてあいさつがありました。

昨年度は、部会政策フォーラムの提言を踏まえ、医療部会として「申16号医療職員の職場環境改善等を求める申し入れ」を提出し、本社と団体交渉を行ってまいりました。その後、配膳業務の変更などに関する検証や今後の病棟建替え、経営状況から見る働き方など議論をしてまいりました。

今後も企業立病院としての役割とコロナ禍における地域医療のあり方などを訴え、職場環境改善活動を通じて再加入を勝ち取り、「新生JR東労組運動宣言」のもと進んでいきます。そして、8月22日に再建した東京地本・柳執行委員長にも参加いただき再建大会の報告を受け、JR東京総合病院が所属する東京地本との連携を強化し、共に運動をつくり出していくことを確認しました。

### 営業部会

#### 仲間の声を大切に、職場活動を源泉に運動を展開していきます

9月4日、営業部会第33回定期委員会を本部大会議室にて、コロナ感染防止のために委員のみの参加として35名の組合員が結集し開催しました。

18春闘以降、営業部会の取り組みになかなか参加できなかった東京・八王子地本の仲間が参加してくれました。東京の委員から「6万人近い組織の時でもグリーンスタッフの雇用を守る」ことができなかったのに分裂では組合員を守れない。東京地本は再建大会を創り出し、営業の仲間を集め意見交換会も開催してきた」といった組織破壊のたたかいた発言もありました。

かいと再建に向けた実践を力強く語っていただき、これから共に運動をつくっていくことを参加者全員で確認しました。

質疑では「VTSに向向しているが本体に復帰する箇所はあるのか」「新たなジョブローテーションを担い28年ぶりに乗務員から駅員になった。マルスは非常に厳しいが転動したからにはしっかりと仕事を」といった施策を担った不安や苦勞、「転動してから若手の話を聞くところからはじめ、券売機やトイレの掃除を積極的に信託を得て加入を勝ち取った」「仕事

### 運輸車両部会

#### 部会の横の繋がりを強化して組織強化・拡大を実現していきます

9月6日、本部大会議室にて、50名を超える組合員が結集しJR東労組運輸車両部会第28回定期委員会を開催しました。委員会はコロナ禍の状況を踏まえて、参加者の健康確保と不安解消のため、マスクの着用、検温、換気、消毒等を徹底し、出来得る感染防止対策を行いました。

18春闘以降の脱退の影響を受け体制を立て直してきた中で、分裂策動により更なる影響を受けましたが、新たな体制を確立し、「新生JR東労組運動宣言」のもと業務課題を通じて組織強化・拡大に向けた実践をしていくことを全体で確認しました。

16名の委員から発言があり、「新たなジョブローテーションの実施」について多くの委員から出されました。「自ら描いたキャリアプランが実現しない。理由についても納得が出来るない」「次は自分だと不安になっている」など不満や不安の声がある一方、「議論を積み重ねてきたから面談で希望をしっかりと伝えることが出来る」と「転勤者の発信から原因究明委員会を開催するようになった」と前向きな発言もありました。また、安全について「新人乗務員が乗務中に列車無線の使い方が分からないことがあった。教導も扱ったことがなく教えてもらえな

った」といった発言もあり、検証運動の必要性を共有しました。

東京地本を再建してきた苦闘についても発言がなされました。今後の運動づくりにおいては

